

1. 研究課題名:「電顕を用いた単粒子画像解析技術の開発による膜タンパク質構造決定の促進」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:

独立行政法人 産業技術総合研究所 脳神経情報研究部門 グループリーダー 佐藤 主税

2-2. スイス側研究代表者:バーゼル大学 M.E.ミュラー研究所 教授 Andreas Engel

3. 総合評価: ( B )

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

スイス側の優れた STEM 用試料調整法に対し、日本側の情報技術を取り入れることにより、単粒子画像の処理や再構築に大きな進展をもたらした。しかし、当初に立てられた両国間の目標は十分に達成されていない様である。本研究交流期間におけるスイス側の研究進展や日本側からの貢献が判りにくく、日本—スイス双方による研究成果が十分に報告されていないのは残念である。

(2)交流成果の評価について

若手研究者は相手国側チームからの指導を受け、日本—スイス間で互いに刺激し合うことが出来ている様に思われる。また、本研究交流の終了後に新たな共同研究が立案されている。一方で、シンポジウムやワークショップの開催がなかったこと、スイス側から日本側への訪問がなかったこと、研究交流期間中における日本—スイス双方の役割分担があまり明確でなかったことなどが改善すべき点と思われる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本研究交流を実施した結果、日本側では当該研究領域の研究希望者が増加するという波及効果があったことは良かった。共著論文が発表されていないことは残念であるが、日本—スイス双方の情報交流がさらに継続される様、今後も検討をしていただきたい。